

浜通り医療生協 組合員訪問支援行動のまとめ

6日間で80組 1,737件訪問、972人と対話

今回の浜通り医療生協組合員訪問は、当該生協の要請に基づき4月25日（月）から30日（土）にかけて行われました。訪問の主な目的は、①支部や班などに組織されていない組合員の安否確認と被災状況の確認、②健康・生活相談、③訪問を通じて医療生協や行政に対しての要望・要求を把握する、でした。訪問は、いわき市の浜側を中心に行い、6日間で80組、1,737件訪問し、972人と対話、訪問件数の56%と対話ことができました。訪問は当初、いわき市小名浜地区の浜側を中心に行いましたが、後半は小名浜生協病院の近辺と10km離れた勿来地区まで拡大し、当初訪問目標であった1,200件を超える訪問活動となりました。

職員は、入職してから訪問するのは初めてという方がほとんどで、「初めての訪問で不安がありました」などの感想がありました。訪問を重ねるごとに組合員の要求を引き出せるようになり、地域の要求に corres pond することの必要性を肌で感じ、がれきの撤去や畳の撤去など、すぐに対応できることは「お助け隊」で対応しました。また、「独居であること、障害者、ということがわかり、何か使える施策はないか」、「今後もこのような活動を継続したい」等のこれからの生協活動につながる積極的な意見も出されるようになり、自分たちの日頃の医療・生協活動への確信に繋がりました。

訪問行動の参加者は延べ273人。福島県連18人、関東地協を中心とした支援者113人、職員87人、組合員12人、生協理事27人となりました。福島県連と一緒に来た福島医大の学生さんは大活躍、また、独自にインターネットで調べ、金沢から4日間、訪問活動に参加して下さったご夫婦もいました。震災復興への思いは垣根が無いと感じました。

浜通り医療生協地域訪問活動支援者数(延べ日数)

県連	25日	26日	27日	28日	29日	30日	合計	実人数
全日本事務局	1	2	2	5	4	2	16	6
福島県連	3	0	0	7	3	1	14	10
東京県連	8	8	11	7	9	7	50	16
千葉県連				4	4	4	12	4
茨城県連				4	4		8	8
一般ボランティア	2	2	2	2			8	2
合計	14	12	15	29	24	14	108	46

浜通り医療生協にとっては、職員が地域に出て組合員の生活実態に触れること、医療生協や病院・事業所への要望を直接聞くこと、これらの大切さを実感できたのではないのでしょうか。これを単発の取り組みにせず継続した取り組みにしていくことが課題だと思います。独居調査、生活要求調査、など組合員の生活状況に合わせた取り組みを行う事。支部や班への組織化などが次の課題です。また、永く続く避難所生活に対する取り組み、特に組合員の状況把握が必要と思われます。特に放射能に対する不安が数多く出されたことから、原発問題や放射能対応マニュアルについて学習会等を職員も含めて組織する必要があります。組合員全体を視野に入れた訪問活動の提起も今後必要だろうと思われます(東京民医連事務局 吉田 孝喜)。